

【知事定例記者会見】5月28日

知事／おはようございます。

5月5日から23日間、新たな感染者はいない。入院者、ホテル療養者も減少し、現在は計10人。県民のご協力で、「チーム佐賀」「オール佐賀」の結果が出ている。

福岡県感染者の半数以上が北九州市で、ほとんどが感染経路不明。昨日の8人も半分がわからない。関連を追えない不安は共有できる。今後の動向は目が離せない。

九州内の第1波は北九州市で発生し、福岡市、熊本、大分でクラスターと拡大した。九州として轍を踏まないよう取り組む。北九州市への支援も大事。

県として、新型コロナウイルスと向き合いながら対応していくために、巣ごもり局面と支え愛活動局面のスイッチが大事。今は、支え愛活動局面なので、苦しんでいる皆さんを支えることが大事。

「SAGAナイトテラスチャレンジ」を実施

その活動として、「SAGAナイトテラスチャレンジ」を実施した。「県内のいろんなところで実証してはどうか」との話もある。他にもいろんな意見があり、社会実験として、佐賀の夜を過ごす方法をみんなで考えていきたい。「スペースがもう少し広いと嬉しい」の声もあった。佐賀駅北からサンライズパークまでの道は、広々となるので役立てたい。

家で過ごすときも、県産品を買って、食べて、応援しよう

SNSでの贈り物キャンペーンやECサイトでの販売、JONAI SQUARE GARDENでは「佐賀支え愛」マルシェも週末開催。その他、テレビショッピングやコラボ商品、ECサイト活用など、企画を出したい。「こんなときだから、できることから思いっきり」として、県民総力で支えていきたい。

県民の皆さまへ ～全国の緊急事態宣言解除を受けて～

当分の間、北九州市への往来は自粛してほしい。発症していない人がいるとのリスクを考え、他地域に感染拡大しないよう自粛をお願いします。

首都圏、関西圏、北海道との往来は、引き続き極力自粛。関西圏は落ち着いてきたが、もう少し様子を見て判断したい。

5月中の県境移動は、生活圏の範囲内。6月1日以降、九州域内は家族で外出など容認。離島への渡航は慎重な行動を。

「高校生と保護者のためのWEB合同企業紹介会」を開催

県内就職率を高めるための、プロジェクト60により県内就職率60%達成。プロジェクト65に上げるさなかで新型コロナウイルスが発生。この影響が危惧される。就職者に限らず、県内企業の動向も見る必要がある。

通常、高校生の企業説明会は前年12月に開催。5月までに学校訪問など、お互いを知る期間がある。中止・自粛により、対面で企業説明を受ける場、高校生が県内企業の魅力を知る機会を失っている。

企業研究が十分にできないなど、納得せず不安を抱えたまま就職が決まる。

就職情報は世の中に出ていないと危惧していたが、今年は特に、コロナの影響で情報も少なく大変だろう。

就職活動の不安解消と県内就職の一層の促進のために

県としては、支援員を増員し、きめ細やかな対応をしていく。また、職業人材育成の充実のため、さまざまな設備整理や外部講師招へいの経費を支援。企業の魅力発信として、高校生、保護者も参加するWEBでの企業紹介を企画。

企業担当者が熱心に説明をし、WEB冊子を発信。企業と家で連携しながら対応していく。6月の日曜日に4回実施。県内企業も参加し、私のメッセージも添える。

地域の宝である高校生の就職活動を「チーム佐賀」で応援する。厳しい就職活動なので、支援していきたい。

ロマシング佐賀 2020、大反響を受けて第2弾

新型コロナの影響で、多くの人が家でゲームをしていた。

『「いくばい!制圧 ロマシング佐賀県」大反響!』ということで、ゲーム内の「佐賀県フィールド」に25万人参加、累計1億6,500万回。最多訪問は、大隈重信記念館の2,800万回とリアルではあり得ない。

県内79か所の観光地や施設で、多くの県産品を紹介。一番強い「ワラスボ」君はTwitterでトレンド入りした。その結果なのか、20代以下の移住希望地は、佐賀県が全国3位に。若い人の佐賀に対するイメージも良くなってきた。「佐賀県のことを知って楽しい」「コロナが終わったら佐賀へ行きたい」「ゲームの初コラボが佐賀県。最高」などの反応があった。

ゲームは、制圧戦というコーナーで、倒して成長していくもの。成長シリーズに佐賀県が使われている。

県内のご当地キャラクターが出現し、対戦していく。唐津くんち、佐賀牛、バルーンなど、佐賀県“推し”の七英雄が登場。キャラを倒すのが大変で、人気が出た。県内のこともわかってもらえる。

大好評なので、「インペリアル サガ エクリプス」での期間限定イベント「佐賀の戦い」の開催も決定。

6月4日16時から、ゲーム内イベント開始。味方キャラとして、「つばざむらい」「つばにゃん」が登場。続報・詳細はWEBサイトで公開中。

「ロマシング佐賀 2020」第3弾も計画中。サガシリーズ30周年として、今後も制作予定。

プロジェクト IDEA 2023

新型コロナで国体の動向が注目されている。県では、新しい大会、国スポ第1回大会が佐賀だとこだわっている。前例のない新しい大会を目指すため、皆さんの力が必要。みんなで新しい大会をつくるのが大事。体育からスポーツへ変わること、何ができるかを考えていくプロジェクト。

2023個以上の、「スポーツだから出来る」アイデアを募集。期限は約1年前。すべての人(AIも可)の応募を求める。「SAGA2023」公式ホームページの専用フォームより応募を。

体育じゃないスポーツとは何かを考えたい。

特典を付け、リアルイベントを開催する。多様な審査員も選考し、実現に向けて取り組んでいく。

「SAGA2023 国スポ・全障スポ 新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」のポスターを制作した。字が多いが、熱い想いを読んでほしい。このポスターで「SAGA2023」を盛り上げたい。

本日より、県内800か所以上へ順次発送。新しい大会をみんなで作り上げていく。よろしくお願いします。

小児・AYA世代の若年がん患者をサポート

AYA世代とは、15~39歳。治療中のAYA世代の悩みには、将来や仕事、経済的なことがある。AYA世代発症の

んサバイバーの悩みの 2 番目には、不妊治療や生殖機能に関する問題も。こうした悩みや不安を和らげるような取り組みを開始。

妊孕性(にんようせい)温存治療とは、がん治療により失われる可能性のある、妊娠するための力を事前に温存するもの。精子、卵子をあらかじめ保存しておく。保険適用外のため、高額となり、経済的負担が大きい。

「子育てし大県」として、県が助成し、支えていきたい

対象は、40 歳未満のがん患者、妊よう性が低下する、または失う恐れがあると医師の診断を受けた人。助成上限額は、精子の採取・凍結保存が 3 万円、卵子が 25 万円。将来的に子どもを産み育てることができると希望を持ってほしい。

住み慣れた自宅で安心して療養生活を送れるように

40 歳以上は介護保険対象、日常生活用具は 19 歳までは小児慢性特定疾病の制度がある。訪問介護は、若い世代が制度のはざまになり、経済的に大きな負担となる。県は、在宅ケア費用の 9 割を助成。対象は、40 歳未満の末期がん患者、居宅介護等の支援が必要な人。最大で月 5 万 4000 円。若い世代の末期がん患者に寄り添っていく。

さん愛プラザ、がん相談支援センターなどに、何でも相談してほしい。

“佐賀の介護事業所リサーチサイト 介の助” 本日オープン

人手不足と言われている介護現場のイメージアップ、やりがいのある職場だとわかってもらえるように、勤務環境や魅力を正しく伝え、人材確保につなげたい。

100 か所以上の事業所を紹介。学生・求職者はイメージづくりを、介護事業所は環境改善などに役立ててほしい。

SAGAサンライズパークで太陽と大地の熱を利用

SAGAサンライズパークについて、かねてから応募していた経産省の補助金の採択が決まった。整備費 4.5 億円は、この補助金でまかなう。

簡単に言うと熱利用。熱利用のメッカを目指している。太陽熱、井水熱、地中熱。熱源を使うプールの保温には、すぐに役に立つ。熱利用のパイオニア施設としてSAGAサンライズパークを活用したい。

アリーナは、3 密を避ける広い避難所としても活用できる。複合的な夢のある施設にしたい。

引き続き、再エネを中心とした社会の実現に取り組む。

スマホ版河川情報“すい坊くん”6月1日リニューアル

これから豪雨の時期。去年は渇水で、ダムに水がなかったが、今年はある。これは、利水にはいいことだが、災害対応の点では余裕がない。

今までは、水位情報だけだったが、カメラ情報を入れた。地図上をクリックすると、リアルタイムで映像が見られる。

また、夜間も対応しているので、避難の際の情報に役立ててほしい。

ぜひ、梅雨入り前に、“すい坊くん”の登録を。

佐賀県産みかん 4 度目の宇宙へ

佐賀県産みかんを JAXA に毎年送り続けている。今、ちょうど「このとり 9 号機」が国際宇宙ステーションに着い

たころ。今までは、グリーンハウスみかんだったが、今回は 29 年連続全国 1 位のハウスみかんを搭載。そろそろ国際宇宙ステーションで食べられているころ。宇宙に行ったハウスみかんをご賞味いただきたい。贈答用のハウスみかんは高額。新型コロナウイルスの影響で、難しい状態になっている。みんなで支えてほしい。

SAGA2020 SSP 杯(カップ)佐賀県高等学校スポーツ大会 開催日程・会場が決定

高校生のために会場確保に全力で取り組み、このように調整できた。県民の支援を得ながら、順次開催していきたい。北九州の心配事もあるが、状況を見据えながらこれを実現したい。

心ない書き込みで傷ついている人がいます

インターネットは、匿名で何でも書けてしまう。その心ない書き込みで傷つく。私は政治家だから、批判を受け止めるようにしているが、それでも傷つくことがある。それがオーバーフローすると、立ち上がれなくなる気持ちはわかる。

匿名でディスること、誹謗中傷は避けてほしい。新型コロナウイルス関係でも、誹謗中傷があると聞いている。

匿名で書いて、ことが大きくなったら消すという卑怯なことはやめてほしい。

佐賀県は、「慈しみ合う」県。心ない書き込みにも向き合う佐賀県でありたい。一つになって乗り越えよう。